



読者のページ



孫の故郷

名東区よもぎクラブ

岩佐 良男

孫に君の故郷はどこだと尋ねたところ、「さあー僕は外国が長いから…」と言って地名を聞くことができませんでした。上の孫が生まれて間もなく、長男の海外勤務地ドイツへ渡り、2年後に下の孫が現地生まれしました。6年後に帰国し東京都で1年生から5年生を過ごした後、ニューヨークへ移り、現在ハイスクールの学生です。

親の勤務の都合で孫たちは定住できず、自分の故郷を決められないのです。グローバル化は経済の進歩でやむを得ないこと

クラブ南風の昭和を歌おう会

名東区クラブ南風

白石 英一

クラブ南風の昭和を歌おう会は、9月が88回米寿記念、12月が90回卒寿記念でした。会員は20名程で、女性が多いです。会員のリクエストで、編曲しています。皆さんで会を盛り上げています。ある会員が軍歌と言われ、「麦と兵隊」を歌いました。大変にうれしかったです。

涙が出てきましたと。ある会員は宝塚の歌をと言われ、「すみれの花咲く頃」を歌いました。この地で、予科練に入隊され、

ですが、グローバル化は一方で貴重なものを奪っているような気がします。

故郷は生まれ育ったところだと思いますが、唯一日本で過ごした5年間、多くの友達もできた東京都ということになるのでしょうか。後のためにも心の片隅に故郷を決めてくれればと思っています。

私は歳を重ねることに故郷のことが脳裏に映じだされる度合いが多くなりました。懐かしい少年時代が昨日のように思われ勇気づけられます。故郷は心の宝物だと思っています。



戦争のため、生死の狭間で大変な苦勞をされたのです。それだけに、感慨は、ひとしおであったでしょう。歌は人を、ここまで感激させます。

昭和、平成、令和と駆けてきた人の集いです。中学生時代、女学生時代を思い起こしてリクエストされています。歌は人をなごませ明日への活力となっています。第100回はもうすぐです。健康を第一に、みんな楽しく歌いながら、百寿を迎えられるよう頑張ります。



テーマ投稿

5月のテーマ

「ご褒美の時間」

太極拳からのご褒美

西区第一大木クラブ

加藤 義勝

5年位前から春・秋週1回、太極拳教室へ通っている。太極拳といっても私のような高齢者ばかりの70名の大所帯。教室は自分の体調に合わせた柔軟体操から始まる。後半はメインの太極拳。終わってみれば汗がにじみでて爽快な気分。

通い始めた頃はできなかった片足立ち30秒。今では難なくできるようになった。昨今、体は

軽やか、食欲旺盛。これは私にとって長年太極拳を続けてきた何よりのご褒美だと思っています。

講師は私と一回りしか変わらない女性の方。その太極拳はまるで鶴が羽を広げたように優雅な動き。そこまではいかなくても参加者はみな体力維持を願っている。

喜寿を過ぎた年齢となったが、ご褒美を頂いた感謝の気持ちを忘れることなく、家族に迷惑をかけないように、いつまでも元気に過ごしたいものです。



ご褒美の時間

北区第一清寿クラブ

舟橋 裕子

退職して「毎日日曜日」という境遇。それでも動けるうちはと思い、ボランティアに出かけている。高齢者の集いのお手伝い・地域相談会のメンバーなど。毎日勤務したころに比べ、ゆとりがあり、年金がいくらか頂けるので、生活上の心配はない。

今が、これまでの人生の「ご褒美の時間」ではないかと思っている。ことに、出かけない日のお茶の時間は至福の時。「家事の合間の一服ご褒美の時間」と称している。午後3時の時が多い。抹茶・紅茶・玉露のお茶・コーヒーは自分で沸かして入れる。添えのお菓子も和・洋風のもの冷蔵庫に用意してある。

忙しかった時を思い起こし、よくやり遂げたと、自分をほめ、お茶を味わっている。



の粋な計らいで、新年のはじめに当たり、社員ひとりひとりに、熱田神宮の「お守り」を支給してください。私はこの大切なお守りを神棚にそなえ、宝物として、この「ご褒美」を心より感謝しています。

「なごやかひろば」では、各区の活動が生き生き発表会のように行われ、また知っている方々が写真で紹介されていて、隅から隅まで読んでいます。(瑞穂区M)



読者の声



週2回麻雀を教えてもらい、楽しんで頑張っています。なかなか上手になれないですが楽しんでます。(中川区U)

古希となり高齢者に関する情報が満載されていて、大変参考になります。(中村区A)

「なごやかひろば」で老人会の活躍がわかり楽しみにしています。(天白区O)

「なごやかひろば」を毎回楽しく読ませていただいています。肩のこらない内容でしかも懐かしかったり、勉強になったりします。(瑞穂区W)

ご褒美の時間

千種区扇寿クラブ

竹本 脩

後期高齢者の私には、ご褒美を頂くことなどありません。

年金暮らしの寂しい老人の私に「神様」が同情してください。たのめでしょうか。今も仕事を与えられ、パートで駐車場の管理をしています。子供の頃から車好きだった私は、日々仕事に励んでいます。楽しいお買い物もされたお客さまの車が、小さく見えなくなるまで頭を下げ、無事に帰宅されますよう念願いたしています。私の働く会社では、社長さん

竹林を行く

天白区相生高年クラブ

山田 勝子

雨あがりの青い空、太陽がまぶしい。木々はキラキラと、光りかがやいている。竹林を行く私の足元は、いつもと異なり枯葉も静かな音をたてている。

誰もいない竹林は、静かに歩む私だけの楽しみ。竹林を抜けると道は二手に別れている。今日はこの別れ道を下って行く。以外な所に出てきた。学校の裏側に出た。楽しいな子供たちの歌声が流れてきた。少し足を止めて聞き、角を曲がると街並みが見え始めた。

何だか空気が変わった気がする。この辺りで、今日の散歩は打ち止めしよう。次回の楽しみを残して。

気持ちのスイッチ

次号テーマ



「読者のページ」ではテーマも設けています。次号のテーマは「気持ちのスイッチ」です。元メジャーリーガーのイチローは、バッテリーボックスに立つとお決まりの動作をして自分のペース(リズム)をつくることで有名でした。ところ変わって私たちの日常生活の中、何か自分なりの決まりごとをすることで、こころの状況を乗り切ってしまうことはありませんか? そんな気持ちのスイッチを入れる「マイルール・マイリズム」を教えてください。